

●成東城跡公園

室町時代に築城された成東城のうち、外の空堀と思われる凹地が残されています。緑豊かな木々に見守られた公園となっています。(成東)



●礎の碑

1945年8月13日、成東駅に停車中の火薬を積載した貨車がグラマン機の攻撃を受け爆発、殉職した作業中の将兵27人、駅職員15人を悼む碑です。(津辺)



●魁の碑

両総の地に鉄道を敷設しようと尽力し、郷土の発展に多大な貢献をした安井理民の偉業を称え、1971年2月に成東駅前に建立されました。(津辺)

大地の記憶

明治維新によって近代化の時

代を迎えます。山武一帯の多くは、掛川から転封された太田資美(松尾藩)支配の後に、木更津県や印旛県に、さらに1873年には千葉県のもとに組み入れられることとなりました。分散していた村々も、町村制の施行により1889年に成東町、大富村、南郷村、緑海村、鳴浜村、源村、日向村、睦岡村、蓮沼村、松尾村、大平村、豊岡村に再編成されました。

明治期には、成東町出身の安井理民らの尽力により総武鉄道が敷設され、地域の発展に大きく寄与することとなりました。大正デモクラシーから第二次世界大戦、そして戦後の混乱期と日本全体が揺れる中、新たな出発となったのが、昭和30年前後に行われた町村合併です。この地域は成東町、松尾町、山武町、蓮沼村の3町1村として歩み始めます。

それぞれの町村は、昭和の高度経済成長から平成時代へと続く半世紀を、地域の発展と住民生活と福祉の充実を努め、2006年3月に、山武市として合併し、新たなスタートを刻みました。

●九十九里教会

1882年に創立、87年に現在地に教会堂が落成しました。米国人宣教師ヘボンが建築費用として多額の寄付を行いました。(松尾町松尾)



●歴史民俗資料館

考古学、民俗資料に加え、『野菊の墓』や直筆原稿など、成東に生まれ育った伊藤左千夫に関する資料を多数展示しています。(殿台)



- 1873 (明治6) ◎木更津県・印旛県を廃止、千葉県となる
- 1876 (明治9) ◎牧野萬右衛門、草深で落花生の栽培を始める
- 1882 (明治15) ◎九十九里教会創立
- 1889 (明治22) ◎成東町、大富村、南郷村、緑海村、鳴浜村が誕生。源村、日向村、睦岡村誕生。新蓮沼村が誕生。松尾村、大平村、豊岡村誕生。各村では養蚕業が盛んに
- 1897 (明治30) ◎郡制改革により山辺郡、武射郡を廃し山武郡を設置。総武鉄道佐倉・銚子間開通。成東駅開業
- 1898 (明治31) ◎松尾駅開業。松尾村が松尾町となる
- 1903 (明治36) ◎「馬酔木」創刊
- 1908 (明治41) ◎塙谷の藤真一邸宅にて『阿羅々木』創刊
- 1920 (大正9) ◎「食虫植物群生地」国指定天然記念物となる
- 1924 (大正13) ◎成東繭市場開設
- 1934 (昭和9) ◎各町村に青年学校が設置される
- 1945 (昭和20) ◎蓮沼村の上空に襲来した米軍艦載機が栗山飛行場を爆撃。鳴浜国民学校、成東駅など被災
- 1955 (昭和30) ◎鳴浜村の白幡、本須賀区域が成東町に編入。緑海村が成東町に編入。睦岡村と日向村が合併し山武町が誕生。松尾町、大平村、豊岡村が合併し新松尾町誕生
- 1968 (昭和43) ◎松尾工業団地完工
- 1972 (昭和47) ◎成東町歴史民俗資料館開館
- 1973 (昭和48) ◎国鉄総武本線が電化される
- 1975 (昭和50) ◎蓮沼海浜公園ウォーターガーデン、開園
- 1978 (昭和53) ◎新東京国際空港が開港
- 1982 (昭和57) ◎成東城跡公園全面オープン
- 1985 (昭和60) ◎成東町新庁舎落成
- 1996 (平成8) ◎文化会館のぎくプラザ完成
- 1998 (平成10) ◎さんぶの森公園オープン
- 2005 (平成17) ◎道の駅オライはすめまオープン
- 2006 (平成18) ◎3町1村の合併により山武市誕生